

大洲市名誉市民

故 西田 ^{まもる} 司 氏 大洲市葬のお知らせ

元衆議院議員で国土庁長官、自治大臣を歴任された大洲市名誉市民の西田司氏が5月9日ご逝去されました。ここに生前のご功績をたたえ、謹んでお悔やみ申し上げます。

つきましては、市葬を次のとおり執り行いますので、市民の皆様のご会葬をお願いします。



【日 時】 7月12日(土)

午後2時30分～

【場 所】 大洲市民会館 大ホール

【形 式】 無宗教による献花方式

なお、市葬ですので、ご供花、ご供物、ご香典の儀は固くご辞退申し上げます。

駐車場として、観光駐車場、大洲小学校グラウンド、大洲南中学校グラウンド、大洲市庁舎駐車場が利用できます。当日は混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用またはお車でのご乗合わせにご協力ください。



【故 西田 司 氏 略歴】

- 昭和3年5月 喜多郡長浜町（現大洲市）下須戒に生まれる。
- 34年2月 長浜町議会議員に初当選。
- 37年2月 長浜町議会議長に就任。
- 38年1月 長浜町長に初当選。以後3期にわたり町長を務める。
- 51年12月 衆議院議員に初当選。以後8期にわたり衆議院議員を務める。
- 59年11月 国土政務次官に就任。
- 平成2年12月 国務大臣 国土庁長官に就任。
- 10年7月 自治大臣・国家公安委員長に就任。
- 12年7月 自治大臣・国家公安委員長に就任。
- 14年11月 勲一等旭日大綬章を受章。
- 17年11月 愛媛県功労賞を受賞。
- 20年1月 大洲市名誉市民となる。
- 26年5月 正三位を叙せられる。



【問い合わせ先】 総務課 ☎24-1724

2020年東京五輪 目指して



地元開催のスポーツ イベント

2020年オリンピック立候補都市による開催計画説明会が昨年7月にスイスのローザンヌで行われ、政治家や芸術家、アスリートなどで組織された東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会による素晴らしいプレゼンテーションが行われました。そして、9月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開かれた第125次IOC総会で、2020年に東京でオリンピックが開催されることに決定しました。

平成29年に愛媛県で開催予定の「第72回国民体育大会」の会場として、平成19年にソフトテニス、平成20年にカヌースプリント、平成22年にソフトボールの各競技会場が大洲市に内定をしています。この内定をうけて、市では、平成23年度に教育委員会内に国民体育大会準備室を設置

2017年えひめ国体 さらにその先を



し、平成25年度からは国体準備課に名称を改め、さらに各種団体などの代表者を含めた準備委員会を設立し、本大会の開催に備えています。

また、愛媛県教育委員会では、えひめ国体時に少年種別（中学3年～高校3年）の主力となる世代（ターゲットエイジ）の有望選手を重点強化する「えひめ国体ターゲットエイジ強化事業」を開始しています。本市からも12人が強化選手に指定され、大会での活躍が期待されます。

大洲市・喜多郡では、6月3日(火)から6日(金)まで中学校総合体育大会が開催され、中学校13校から約1000人の生徒が参加し、県大会を目指して12競技で熱戦が展開されました。学校や地域が積極的にサポートをすることで、今回の総体に参加した生徒の中から、県や日本の代表として活躍する選手が現れるかもしれません。

春の叙勲

瑞宝双光章



上田 弘 さん
(若宮)
元喜多小学校長

上田さんは、長年にわたり学校教育にご尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受賞されました。

瑞宝单光章



武田 重光 さん
(田口)
元大洲市消防団副団長

武田さんは、長年にわたり消防業務にご尽力されたご功績により、このたび「瑞宝单光章」を受賞されました。

高齢者叙勲

瑞宝单光章



往田 憲治 さん
(阿蔵)
元愛媛県警警部

往田さんは、長年にわたり警察業務にご尽力されたご功績により、このたび「瑞宝单光章」を受賞されました。

瑞宝双光章



酒井 千春 さん
(柚木)
元大洲市助役

酒井さんは、長年にわたり地方自治にご尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受賞されました。

春の叙勲(危険業務従事者)

民生児童委員に対する 厚生労働大臣特別表彰

この度、多年にわたる社会福祉の増進に貢献された功績により、厚生労働大臣特別表彰を7人が受賞されました。

今回受賞されたのは、昨年11月末で退任された民生児童委員の中で20年以上在職された人と75歳以上で15年以上在職された人で、過去に大臣表彰などを受賞されていない人です。

【受賞者】(敬称略)

20年以上在職

▽友松 豊子 (肱北地区)

▽角田 和三 (肱川地区)

75歳以上で15年以上在職

▽作田 教郎 (新谷地区)

▽河邊 宗義 (上須戒地区)

▽矢野 和子 (長浜地区)

▽横山キヌ子 (長浜地区)

▽山下 博 (肱川地区)



功労者へ市長から表彰 大洲市民生児童委員協議会総会・研修会を開催

大洲市民生児童委員協議会（安藤光郎会長、163人）の平成26年度総会が5月19日（月）、総合福祉センターで開催されました。

開会にあたり、安藤会長は「昨年度創設された民生児童委員の市長表彰は、我々にとつて大きな励みになります。これからも、さらなる資質向上に努めます」とお礼と決意の言葉を述べました。

続いて、同協議会長から市長へ推薦のあった民生児童委員12人に対し、清水市長から表彰状と記念品の贈呈が行われました。

その後行われた議事では、平成25年度事業・決算報告と平成26年度事業計画・予算案が、それぞれ原案どおり可決されました。

総会終了後には、NPO法人こころ塾の菅奈美先生による「心を元気にする秘訣について」と題した研修会が開催されました。

参加されたみなさんは、「セルフケア（自分の力）」と「笑顔浴（他人の力）」によって自分自身が元気になることが、地域の元気につながっていくといった講話を、今後の活動に役立てようと真剣に耳を傾け学んでいました。



- 【市長表彰受賞者】（敬称略）
- ▽上野 信明（肱南地区）
 - ▽柿見 純一（肱北地区）
 - ▽青木眞利恵（喜多地区）
 - ▽武田 麗子（喜多地区）
 - ▽金野 智恵（南久米地区）
 - ▽鳴滝 勝明（菅田地区）
 - ▽小山 忠光（大川地区）
 - ▽長尾 幸子（大川地区）
 - ▽中野 博暉（柳沢地区）
 - ▽東 直美（三善地区）
 - ▽後藤 昭一（八多喜地区）
 - ▽福村 俊弘（長浜地区）

大洲の夏を彩る「うかい」開幕 ～うかい開き～

うかいの開幕式が6月1日（日）、うかいレストプラザ前の河原で行われました。

開幕式で古森観光協会長は「日本三大うかいの一つである、大洲のうかいはがじまります。今年から料金設定などを変更して、より利用しやすく親しみやすいうかいを目指します」と述べました。

開幕式終了後、約270人の乗船客は、23隻の屋形船にそれぞれ乗り込み、川下りを楽しみながら船内で料理を味わいました。

辺りが暗くなると、かがり火を灯した鵜船がゆっ

くりと下り始め、放たれた鵜は元気にアユを追いかけっていました。

鵜船が近づいた屋形船からは、「頑張れ」「捕まえた」などの歓声が上がっていました。最後には、開幕を祝う花火約300発が打ち上げられ、どの屋形船からも拍手が送られていました。

大洲のうかいは、9月20日（土）まで楽しむことができます。また、期間中の毎週日曜日および8月13日（水）から15日（金）までは、昼うかいも堪能できます。



まちおこし支援金贈呈式

新谷公民館において、まちおこし支援金とベンチの贈呈式が行われました。

贈呈式では、四国コカ・コーラボトリング株式会社愛媛支店安藤伸也支店長が「みなさんの頑張りが、大洲市の活性化につながると思う。今回をきっかけとして、今後みなさんの活動に協力していきたい」と話されました。

新谷一万石まちおこしの会を代表して大塚弘一会長が「私たちの活動に賛同いただき、大変うれしく思う。今回の支援金などを活用し、7月の夏祭りや10月の銀河鉄



道999イラスト審査会などの各種イベントを開催し、新谷地区の活性化につなげたい」とお礼を述べました。

今回、新谷町内に設置されたベンチ5脚には、新谷小学校にある壁画と「銀河鉄道999始発駅新谷」の文字がプリントされています。

ベンチの設置により、まちおこしのテーマである「松本零士先生」そして「銀河鉄道999」と新谷のつながりをPRするとともに、地域の人や来訪者の憩いの場として活用されています。



しゅめ 主馬神伝流日本泳法流派認定祝賀会

5月25日(日)、日本泳法13番目の流派として日本水泳連盟から認定された主馬神伝流の認定祝賀会が、日本水泳連盟会長代理をはじめ全国12流派の関係者、神伝流一門など、多くの来賓や関係者約100人が出席してリジェール大洲で開催されました。

開会にあたり今井要保存会長は「大洲神伝流から主馬神伝流に名称を変更し、新しいスタートをきった。認定に際しては、多くの人にお世話になった。13番目の流派として恥ずかしくないように会員が心を一つ

にして、後継者の育成や組織の活性化、広報活動に力を入れたい」と述べました。

清水市長は「主馬神伝流は、今まで400年もの長い期間、大洲の地で脈々と受け継がれてきた。現在も、水泳教室や寒中水泳大会の開催で、子どもから高齢者まで親しまれている。これからも、100年200年と受け継がれるようにしたい」と祝辞を述べました。

会では、「伊予長浜豊年踊り」と「大洲臥龍太鼓」のアトラクションが披露され、お祝いに華を添えました。



シリーズ・大洲市地域づくり表彰

平成25年度「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさん（4個人、1団体）を、シリーズでご紹介します。



【上田さんからのメッセージ】
通学合宿るりひめ村は、「地域の子どもは地域で育てる」をテーマに、白滝小学生を対象として平成14年度から通学合宿を毎年開催しています。この活動の最大のねらいは、子どもたちに、自らの生きる力を身につけながら、交流を通じて郷土愛や地域の一員としての自覚を促すことです。また、地域の各種団体にも協力してもらっていることで、地域の団結や活性化を図るこ



とも目的のひとつです。今年度で13回目を迎える通学合宿では、第1回の参加者が事務局として参加してくれることになり、時の流れを感じることも、つながっていることのうれしさも感じています。これからも、地域の子どもたちのため、また地域の団結や活性化のためにも、できる限り長く続けたいと思っています。

地域づくりに貢献

通学合宿るりひめ村
実行委員会

委員長

上田 公一さん
(白 滝)

大洲商工会青年部 大洲ご当地クイズ

7月5日(土)に、愛媛県商工会議所青年部愛媛県大会「大洲大会」の開催が予定されています。

当日は、肱川でのカヌー体験やNPO法人グリーンバレーから講師を招いて「過疎」をテーマにしたグループディスカッション、株式会社モスフードサービス櫻田厚代表取締役社長による記念講演などがあります。その後行われる懇親会では、大洲の魅力をPRする予定です。

【今月のクイズ】

国立大洲青少年交流の家に、カヌーは何艇あるでしょうか。

- ①約100艇
- ②約200艇
- ③約300艇



【先月号のクイズの解答・解説】

大洲の郷土料理「いもたき」を使用した創作料理はどれでしょう。

- ① 大洲飯
- ② 大洲バーガ
- ③ 大洲コロッケ
- ④ 大洲チャンポン

解答 「③大洲コロッケ」

解説 「大洲コロッケ」は、『第1回O級グルメコンテスト』で、三ツ星賞を受賞した創作料理です。販売料理店は、市内に6店舗あります。大洲産の里芋を使うこと、いもたきの具材を使うこと以外は、各店のセンスに任されていて、それぞれ違った味の大洲コロッケを楽しむことができます。



※今月のクイズの答えは、広報大洲8月号に掲載します。

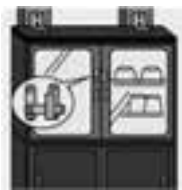
防災シリーズ No.1

【問い合わせ先】 危機管理課防災係

☎ 24 1742



家具が倒れる・食器やガラスが割れるなどの危険がいっぱい

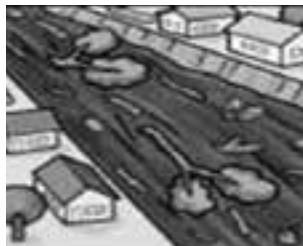


地震の負傷者の多くは、家具類の転倒・落下物によるものです。
【家具転倒防止等推進事業のお知らせ】
 市では、地震発生時の家具転倒による被害を最小限に抑えるために、家具転倒防止器具の設置およびガラス飛散防止のフィルム貼りが自力では困難なみなさんを対象に、器具の取り付けおよびフィルムの貼り付け作業を代行します。お気軽にお問い合わせください。
 ※器具およびフィルムの実費は、個人負担になります。

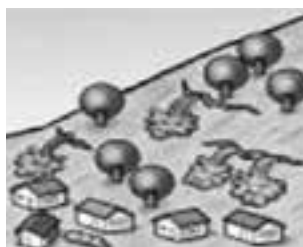
地震には、家具の転倒防止から



小石がパラパラと落ちてきた



川がにごり、木が流れてきた



急に水がわき出してきた

がけ崩れ

土石流

地すべり

【土砂災害に注意】

梅雨前線の停滞など雨が降り続く時期は、特に注意しましょう。いつもと違う状態を感じたら、できるだけ早く、周りの人たちとすぐに安全な場所に避難しましょう。

梅雨シーズンの心構え

文化財

小藪のイヌマキ
 大洲市指定天然記念物
 個人所有



肱川町宇和川の小藪温泉

本館前の道路端にある本樹は、根回り7m、枝張り東西14.5m、南北12.8mで、樹齢は約300年と推定されています。

イヌマキは、庭木や生垣に多く利用される樹木ですが、目通り3.9m、樹高約17mにもなるものは少なく、本樹は市内で最大のものになります。

その大きさから愛媛県内の植物研究者として名高い八木繁一しげいち氏が、小藪温泉とともに将来名物になると講評したと伝えられています。

(昭和42年7月24日指定)

野鳥

ヨシゴイ (葭五位)
 ペリカン目サギ科
 大きさ36cm



キジバトくらいの大きさで、最も小さなサギの仲間です。生息場所は、河川の葦原あしや水草の多い池、水田などで、個体数も少なくめったに出会うことがありません。

最近の河川工事では、コンクリートで固める構造が多くなっています。そのためヨシゴイは、全国的に生息数を減らし、準絶滅危惧種(条件により絶滅危惧に移行する恐れのある種)に定められています。高知県四万十川では、河川工事をしても元の景観に戻るように土を被せることで、植物が生い茂り水が浄化されています。肱川流域が、ヨシゴイが飛び交う清流になることを願っています。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

育児のお悩み相談所

子育ては楽しい反面、想像以上に大変なことです。悩みのある場合、一人で悩まずに、周りの人や関係機関へ気軽に相談しましょう。

お悩み①

母親にむし歯が多いと、子どももむし歯になりやすいですか。

—赤ちゃんにむし歯菌はいません—

むし歯の原因としては、歯並びや唾液の性質など遺伝的なものがあります。そのほかにも、甘いものをだらだら食べたり、歯磨きをしつかりしないことなどの生活習慣も大きく影響します。

まわりの人のむし歯菌がスプーンなどを介して、赤ちゃんの口に入ってしまうことがあります。そのため、赤ちゃん専用のスプーンを使うようにしましょう。

まわりからむし歯菌をうつす可能性を減らすためにも、家族全員で気をつけましょう。



お悩み②

1歳8ヶ月児の母親です。おまに誘っても嫌がり、トイレトレーニングが進みません。どうしたらいいですか。

—自分でできるようにお手伝いを—

子どもの体に準備ができていなかどうかが大切です。歩くことができ、言葉がある程度理解できること、「おしっこをしたい」という意思が伝えられ、おしっこの間隔があくようになることなどが目安です。

また、オムツをはずす頃は、自己主張を始める時期です。嫌がる時は、声かけをいったんお休みするのも一つの方法です。無理強いない、叱らない、褒めるが成功の秘訣です。

【問い合わせ先】

大洲市保健センター
☎0310



大洲藩主加藤家の文化財（第貳幕）

加藤貞泰（かとうさだやす）



大洲藩初代藩主である加藤貞泰は、天正8年（1580）加藤光泰の嫡男として近江国磯野村（現在の長浜市）に生まれました。

文禄2年（1593）朝鮮の役において、父光泰が急病のため59歳で亡くなると、翌年甲斐国24万石から美濃国黒野4万石へ移されます。この転封は、光泰の遺言によるものとされてはいますが、一説には光泰と対立していた石田三成が、15歳の貞泰に甲斐国を任せることは危険であると、秀吉に告げ口したことによるとも言われています。

文禄3年（1594）から慶長15年（1610）の15年間黒野を領有した貞泰は、黒野城を築くほか、河川の堤防工事を行いました。しかし、慶長15年、工事が完成しないまま伯耆国米子へ転封となってしまいます。未完成となった堤防は、貞

泰の官職名である左衛門尉の一部をとって尉殿堤と呼ばれ、現在もその一部が残されています。

元和3年（1617）大坂夏の陣の功により、米子から当地大洲へ転封となりました。

大洲へ入封した貞泰は、大洲城の修復や藩船の運行に当たる船手組を組織するなど藩の基盤強化に努めましたが、元和9年（1623）江戸において44歳で亡くなりました。

遺骸は、江戸の菩提寺である海禅寺に埋葬され、大洲にも墓所が築かれました。貞泰の墓所は、龍護山曹溪院本堂前の少し高い場所に8代藩主泰行と並んで配置されています。

貞泰の人物像については、人愛深く、節義を重んじるだけでなく、詩を賦し歌を詠み、連歌を好むなど風流人であったとも伝えられ、文武にたけた藩主でありました。



龍護山曹溪院にある貞泰の墓所



沖浦地区を盛り上げよう ～第2回がんばる沖浦inバザー～

沖浦公園グラウンドにおいて、「第2回がんばる沖浦inバザー」が開催されました。

会場では、フルフルコーナーや芸能発表コーナー、出店・バザーコーナーなどがあり、地元住民を中心にイベントを楽しみました。

また、ゆるキャラのO級くんも参加し、子どもたちの人気を集めていました。



スポーツで地域福祉に貢献 ～24時間チャリティソフトボール大会～

日本郵政グループ労働組合愛媛南予支部主催による「24時間チャリティソフトボール大会」が、大洲市高砂運動場^{たかすな}で開催されました。

各チームが1失点ごとに100円の寄付を行うこの大会に、14チーム約300人が参加し16試合が行われました。

集まった47,700円とタオル605枚は、大洲市社会福祉協議会肱川支所に寄付されました。



ホタル観賞と音楽の夕べ ～河辺ふるさとの宿ホタル祭り～

今年も河辺の初夏の風物詩、ホタル祭りが開催されました。

当日は、残念ながら雨模様となりましたが、ギターやハーモニカの演奏、ホタルについての講座が行われました。

その後、参加者全員で観賞場所に行き、ホタルが放つ幻想的な光を楽しみました。



もしもの時に備えて ～水防工法訓練～

水防技術の向上などを目的とした水防工法訓練が、若宮にある肱川河川防災ステーションで行われました。

この日は、消防団や自主防災組織から約170人が参加して、ロープワークや月の輪工法などの土のう積み工法の実技訓練が行われました。

今回の訓練を通して、出水期に備えるとともに、水防に関する意識高揚を図りました。